

令和5年度 鹿児島県立奄美図書館運営に関する点検及び評価結果

当館が策定している基本的運営方針を踏まえ、令和5年度の重点施策と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づく運営の改善を図ります。

【鹿児島県立奄美図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し、成長し続ける図書館
～支える・役立つ・つなぐ・育む～

【基本目標・重点取組施策】

<基本目標Ⅰ：支える図書館>

鹿児島県立奄美図書館は、県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、県民の読書活動を「支える」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 市町村図書館支援の充実 | 2 ネットワークの構築 |
| 3 図書館運営研究の拠点 | 4 図書館協議会等の充実 |

<基本目標Ⅱ：役立つ図書館>

鹿児島県立奄美図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、県民に「役立つ」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 利用者に対応したサービスの充実 | 2 課題解決支援・学習支援の充実 |
| 3 郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化 | 4 図書館資料の計画的な整備 |

<基本目標Ⅲ：つなぐ図書館>

鹿児島県立奄美図書館は、県民が新たな知を創出できるよう、居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めることにより、人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 場と人をつなぐ環境づくり | 2 人と人をつなぐ環境づくり |
| 3 情報と人をつなぐ環境づくり | |

<基本目標Ⅳ：育む図書館>

鹿児島県立奄美図書館は、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

〔重点施策〕

- | | | |
|--------------|-------------|-----------------|
| 1 子ども読書活動の推進 | 2 大人読書活動の推進 | 3 郷土の人・文化の理解と継承 |
|--------------|-------------|-----------------|

－評価基準－

評価	内 容	
A	非常に良好	計画どおりに実施でき、大きな成果が見られた
B	良好	計画どおりに実施できた
C	やや不十分	概ね計画どおりに実施できたが、一部が実施できなかった
D	不十分	計画どおりに実施できなかった

基本目標Ⅰ「支える図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、「支える」図書館を目指します。

Ⅰ 令和5年度の実施状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	市町村図書館支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化を行うとともに、連携を密にし、利用者サービスの向上を図る。 貸出文庫により、市町村立図書館をとおして県民への図書の貸出を行う。 図書館ポータルサイトを活用し、相互貸借の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館協会奄美支部の主催事業や図書館講座等の場を活用して連携を図った。 貸出対象の拡大を図りながら、利用の推奨に努めた。 ポータルサイトの運用と活用の改善を図り、利用促進を呼びかけた。 	B
2	ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 市町村立図書館（室）における、利用者サービスの向上を促進する。 図書館情報システムの適切な運用管理を行うとともに、セキュリティ対策の強化を行う。また、図書館情報システムを活用したサービスの利用促進を図るため、横断検索システムへの参加・利用促進を図るとともに、ホームページの情報更新に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 居住地返却の方法や基準等について、改めて各図書館（室）に周知を図り、令和5年度は計画当初の目標値を上回るなど、ネットワークを通じたサービスが浸透している。 横断検索システムの参加自治体数は令和4年度と変わらず38市町村だが、新たに5図書室（霧島市）が参入した。 	A
3	図書館運営研究の拠点	<ul style="list-style-type: none"> 図書館講座等をとおして、図書館職員の資質向上を図る。 公立図書館（室）、学校図書館を訪問し、指導助言を行うとともに、来館研修や図書館司書実習を受け入れるなど、市町村や各種団体等の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は喜界町で実施し、参加者数は目標に達しなかったが、「ビブリオバトル」等を取り上げた講座内容は参加者から好評を得た。 大島地区内の市町村からの要請を受け、研修へ職員を派遣するなど、市町村等を支援した。 	B
4	図書館協議会等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大島地区内の公立図書館（室）職員からの意見・要望を参考にし、図書館運営や利用者サービスの改善・向上を図るため、図書館協議会及び図書館協会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は台風接近により、図書館協会奄美支部総会及び地区図書館連絡会議は中止せざるを得なかったが、各図書館（室）と連絡を密にするよう心がけた。 	C

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	県民一人当たりの貸出冊数	3.50 冊	3.28 冊	93.7%
2	市町村満足度	80.0%	85.0%	106.3%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	図書館等への貸出冊数	1,180 冊	590 冊	50.0%
2	居住地返却の冊数	40 冊	69 冊	172.5%
3	横断検索への接続市町村数	40 市町村	38 市町村	95.0%
4	講座等への参加者数	50 人	16 人	32.0%
5	「大島地区図書館連絡会議」の参加者数	30 人	0 人	0.0%

3 評価と今後の取組について

県民一人当たりの貸出冊数は、令和3年度以降、緩やかな回復傾向にある。

貸出文庫・相互貸借・居住地返却等に関する利用者アンケートでは、85.0%が「満足・やや満足」と回答しており、前年度に引き続き、好意的な評価を受けた。特に、居住地返却については目標値を大幅に超えており、ネットワークを通じたサービスが浸透していることがうかがえる。

図書館講座の参加者については、目標値を下回っているものの、読み聞かせとビブリオバトルをテーマとした講座内容は好評であった。公共図書館職員の資質向上の良い機会となるよう、今後も内容の見直しに取り組んでいきたい。

大島地区の図書館活動等の振興策を協議する場として「大島地区図書館連絡会議」を毎年開催している。意見交換等を通じて連携協力を確認するとともに、地区内の市町村立図書館（室）の意見や課題に対して、支援できるよう努めていきたい。

今後も、研修や訪問により図書館職員の資質向上に努めるとともに、横断検索システムへの参加・利用促進を図りながら、市町村立図書館（室）への支援を行うことで「支える」図書館としての役割を充実させたい。

基本目標Ⅱ「役立つ図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、「役立つ」図書館を目指します。

Ⅰ 令和5年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	利用者に対応したサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧や貸出など利用しやすい環境整備とともに、様々な利用者サービスの向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1階バリアフリー図書コーナーの充実を図るとともに、大活字本を当事者が利用しやすい位置に変更した。また、3階閲覧室について、利用者が目的の本を探しやすいよう、全体的にレイアウトの見直しを行った。 	A
2	課題解決支援・学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土に関する事項の件名やレファレンス事例の電算入力、パスファインダーの作成等、レファレンスツールの充実に努める。 ・課題解決支援コーナーの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス件数は、令和4年度より年間15件増加し、目標達成率88.9%であった。奄美群島日本復帰70周年に関連した問い合わせも多く、県民や地域の課題解決支援への役割を果たしているものと考えられる。 ・課題解決支援コーナー4分野の資料収集、配架の工夫を行い、充実を図った。 	B
3	郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の文化遺産として永く後世に伝えていくために網羅的で積極的な郷土資料の収集を行い、そのために各関係機関との連携を図り協力を依頼する。 ・郷土資料の保存と活用のため郷土新聞や貴重資料等のデジタル化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書以外の県行政資料や市町村発行資料等の収集及び、世界自然遺産の保全と活用に関する郷土資料の収集に積極的に努めた。 ・郷土新聞のマイクロフィルム化については、過去の受入も落ち着き、目標値を達成するなど順調に進んでいる。 	B
4	図書館資料の計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生涯学習に役立つ資料を幅広く収集するとともに、海音寺潮五郎文庫や雑誌スポンサーコーナー、障害者サービス資料の充実も図りながら、県民の調査相談に資する図書館、保存図書館としての資料の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収容スペースの確保を図りながら、計画的に約5千冊を受け入れた。雑誌については、スポンサー制度により、12団体から17誌の提供を受けた。また、障害者サービスについては、積極的にオンライン研修を受け、還元を図っているところである。 	B

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	貸出＋書庫閲覧冊数	128,800 冊	88,876 冊	69.0%
2	利用者満足度	56.0%	52.0%	92.9%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度	56.0%	52.0%	92.9%
2	レファレンス検索データ入力件数	180 件	160 件	88.9%
3	郷土新聞のマイクロフィルム化	1,290 本	1,290 本	100.0%
4	蔵書冊数	253,780 冊	253,155 冊	99.8%

3 評価と今後の取組について

貸出冊数については、目標値に対して 66.9%の達成率であり、前年度に引き続き減少している。全国の県立図書館も減少傾向にある中、市町村立図書館の運営の支援、資料保存図書館としての郷土資料の充実、子どもの読書の推進を中心とした読書活動の推進等の基本的な分野に力をいれつつ、今後も来館者の動向を注視していきたい。

貸出期間や冊数、予約、調査相談等の 11 項目に関する利用者満足度は、目標値に若干到達しなかった。当館のサービスを認知していない利用者が 50%程度存在するなど、事業やサービスの認知度を高めるための広報等に引き続き取り組む必要がある。

大活字本等のアクセシブルな書籍については、読書バリアフリー法や県読書バリアフリー計画を踏まえ、計画的に取り組むこととしたい。

レファレンス件数については、奄美群島日本復帰 70 周年関連の相談も多く、順調に伸びている。引き続き、調査研究に役立つ図書資料の収集に努め、レファレンス結果を集積することで、更なる課題解決支援サービスの充実につなげたい。

今後も郷土資料の収集や、郷土新聞のマイクロフィルム化を進め、購入・寄贈の計画的な受入を行い、図書資料の充実を図りながら、課題解決支援の充実のために「役立つ」図書館を目指していきたい。

基本目標Ⅲ「つなぐ図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県民が新たな知を創出できるよう、居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めることにより、人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

Ⅰ 令和5年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	場と人をつなぐ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌やホームページの内容の充実を図り、積極的な情報発信に努めるとともに、県の広報誌等を活用した広報活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容の整理・充実とともに公式 Instagram・Facebook の投稿数の増加に努めた。広報誌等を利用した広報活動や、地元 FM ラジオ局の番組に出演するなど情報発信に努めた。また、県トライアル発注・販路開拓支援制度を活用し、和風屏風コーナーを設置し、効果的な広報展示を実施した。 	B
2	人と人をつなぐ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・県利用者が多様な他者と交流し、図書館や図書資料を活用してコミュニケーションを楽しむことができるよう、交流イベントを開催する。 ・一般県民に館内3か所の研修室を有償（減免規定あり）で貸出を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流イベント（クリスマスおはなし会）の参加者数は124人と目標とした180人には達しなかったが、令和4年度と比較して80人の増加であった。また、10月29日に開館以来入館者200万人を達成したため、セレモニーを実施し、記念として新たに公式キャラクターを募集するなど、今後の利用者増に向けた気運の醸成を図った。 ・研修室の利用案内をホームページに掲載するなどして、研修室の稼働率が令和4年度の34.1%から44.8%へ約10%上昇した。 	B
3	情報と人をつなぐ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を生涯学習の活動や成果を発表する場として活用するため、ボランティア活動を支援する。 ・ホームページや SNS を活用した情報提供や情報交流を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当館が実施するボランティア養成講座を受講した方のうち、高校生から一般まで計160人がボランティアに登録し、前年度を約100人上回る、延べ277人が活動に取り組んだ。 ・Instagram 等へ積極的に最新情報を掲載し、フォロワー数は目標値を大幅に上回った。 	A

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	入館者数	135,500人	90,715人	66.9%
2	利用者満足度	71.0%	77.1%	108.6%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度	71.0%	77.1%	108.6%
2	交流イベント参加者数	180人	124人	68.9%
3	ボランティア活動者数	250人	277人	110.8%
4	HPのリンク数	11件	8件	72.7%
5	SNSフォロワー数	500件	517件	103.4%

3 評価と今後の取組について

入館者数は目標値の66.9%であり、昨年度よりも約3千人減少した。令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたが、前年度に引き続き減少となっている。その要因については、コロナ禍を経た生活スタイルの変化等、様々に考えられるが令和6年度も動向を注視しつつ、必要に応じて指標の見直しも含め検討したい。

利用者満足度は、77.1%と目標値を超えており、今後も魅力的な空間の創出に努めていく。

ボランティア活動者数については、277人と目標値を上回っており、ボランティア養成講座を実施している成果が現れている。

Instagram等のフォロワー数も着実に増加しており、SNSによる情報発信が利用者に根付きつつあると感じている。

今後も、当館の魅力を十分に発信できるよう、交流イベント内容等の検討を行うとともに、来館者が利用しやすい環境の充実に努めたい。また、広くSNSや地元広報誌・FMラジオ局等を活用した広報を行い、地域の人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指していきたい。

基本目標Ⅳ「育む図書館」

鹿児島県立奄美図書館は、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

Ⅰ 令和5年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	子供読書活動の推進	・読書指導者等研修会等を開催し、学校や家庭、地域における読書活動の輪を広げる。併せて、各種講座や講師派遣の中で、子供読書推進についての周知を図る。	・読書指導者等研修会への参加人数は、目標値に対して6割程度の達成であったが、昨年度の達成率と比べると10%増加するなど改善も見られた。また、各研修会等における講義や指導助言の際に、子どもの読書活動の重要性と意義、具体的な進め方について周知を図った。	B
2	大人読書活動の推進	・65歳以上を対象にした音読教室を開催することで、図書館が仲間作りの場として、より積極的に活用されるきっかけとする。	・大人が読書活動を楽しむ機会の提供を目的とした各種イベントを当初の予定通り実施することができ、参加者からも好評を得た。	A
3	郷土の人・文化の理解と継承	・島尾敏雄記念室企画展、講演会、郷土コーナー企画展や「あまみならでは学舎」を開催し、県民の生涯学習の一助とするとともに、図書館利用の促進につなげる。また、広報活動として広報誌やホームページの充実を図り、報道機関への情報提供を行う。	・郷土コーナー企画展では、当館のルーツである、奄美日米文化会館に関する展示を実施した。また、生涯学習講座「あまみならでは学舎」において、元名瀬市婦人会長を講師に日本復帰当時の様子に関する講演を実施するなど、奄美群島日本復帰70周年に当たり、各取組の工夫やPRが奏功し、目標値を上回る成果を挙げることができた。	A

2 各種指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	研修会等の参加者数	580人	575人	99.1%
2	受講者満足度	98.0%	98.6%	100.6%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	講座等参加者数 (定員に対する参加者数の割合)	108人	64人	59.3%
2	大人向けイベントの実施回数	6回	6回	100.0%
3	講演会や企画展の参加者数	472人	511人	108.3%

3 評価と今後の取組について

「読書指導者等研修会」の参加者は、目標値に届かなかったものの、昨年度より増加しており、満足度も高い傾向にある。

「音読教室（心も体もイキイキ！音読教室）」については、地元FMのパーソナリティをゲストに迎え、実際に体験していただくことでラジオ番組での広報にもつながった。令和6年度は全6回中2回程度を、出前事業として希望する市町村で実施する予定である。

「あまみならでは学舎」については、予定されていた7回全て実施でき、奄美群島日本復帰70周年の年でもあったことから、受講者の関心も高く満足度も非常に高い数値となっている。また、最終回である第7回を、オンラインで配信するという初の試みを実施したところ、全100人の参加者中、10の方が視聴された。当館まで来なくても近隣の自治体で生涯学習講座が受講できるよう、受講者のニーズ等も踏まえ、引き続き検討を進めたい。

今後も、研修会等の実施方法を工夫し、大島地区民の読書活動の推進を図りながら、生涯に渡って読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指していきたい。